

# 白鷹山

(冠字番号 )

成果 X=-196631.839m  
Y=- 58536.669m  
標高 986.60m

世界測地系「測地成果 2011」

一等三角点シリーズ（白鷹山編）

大和工営一等三角点の会

点	選	点	明治 21 年 11 月 一日	選	点	者	真田義啓
の	造	標	明治 一年 一月 一日	—	—	—	—
記	埋	標	明治 39 年 9 月 11 日	埋	標	者	川又藤四郎
抜	観	測	平成 8 年 9 月 15 日	観	測	者	金野幸弘
粹	(備考) 昭和 55 年、高度基準点測量				(注)		
所在	山形県西置賜郡白鷹町大字中山字山 2582				(注) 「入」の下に「山」		

登山日 2014 年 8 月 31 日 (月) コースタイム：徒歩 3 分

## 上杉鷹山公ゆかりの白鷹山

### ふたつの白鷹山へ!?!?...

山形県村山地方と置賜地方を分かつ処に白鷹丘陵がある。最高峰の白鷹山 (994m) 山頂には虚空蔵尊が祀られ、米沢藩中興の祖・上杉鷹山公の信仰が厚かったと伝えられている。

しかし一等三角点はこの白鷹山山頂にはない。実は山頂から北北西に張りだした尾根の約 1 km 先にあり、点名も同じ「白鷹山」となっている。かくして同じ山域にふたつの白鷹山が対峙することとなる。



### 一等三角点白鷹山への道...

一等三角点白鷹山には国土交通省の「白鷹山レーダ雨雪量計」が設置されており、それにあわせて管理用道路がある。この道路を利用出来れば日程的にかなりの余裕がでてくる。事前に「偵察」を行った結果、常時「一般車両通行止」で道路を管理する白鷹町の許可があれば利用できることを知った。管理用道路のゲート脇に「通行許可」の手続を行う窓口が書かれていた。



### 「通行手形？」の交付申請...

その足で白鷹町教育委員会のある中央公民館に向かった。事務室に 2 名の方がいた。白鷹山一等三角点に行くため管理用道路を使用させて頂きたい理由を説明した。対応してくれた方から、「今日は成人式で担当者がいないんです・・・。」と言われた。でも思い出したように携帯で担当者に連絡をとってくれた。そして申請書類などを聞き出して渡してくれた。「申請書類は郵送でいいですから」と言ってくれた。そんな対応になんか暖かい気持ちになり公民館を後にした。

## いよいよ三角点の白鷹山へ・・・

高館山から月山道路を経て、寒河江市から一般国道 287 号を走行して白鷹町に向かう。

白鷹町中央公民館に立ち寄り、管理用道路ゲートの鍵を借りて白鷹山に向かう。途中、白鷹町萩野という集落を通った。新庄市萩野出身の私（筆者）は変な親近感を覚えた。

ゲートを開け、管理用道路を車で上る。頂上につくと目の前に巨大なレーダドームがあり、圧倒された。時刻は Pm1:20 である。



国土交通省 白鷹山レーダ雨雪量計 観測所

## 何だヨあの車、許可書あんのかよオ・・・

山頂には 3 台の車があった。（ゲートの鍵はひとつでなかった・・・）そして遠くから、「何だヨあの車、許可書あんのかよオ」の声が聞こえてきた。思わぬ「<sup>ちんにゅうしや</sup>闖入者」に迷惑？ 千万なのだろう。ドームの周辺はパラグライダーのホームグラウンドらしく若者から壮年まで 20 名近くの愛好者が集って練習中であった。駐車場端には専用のプレバブ小屋があり用具の保管庫にしているみたいだった。



大空に飛び立つ夢を追いかけて・・・

白鷹町中心部

パラグライダーの調整に余念がない愛好者たち

## ふたつの白鷹山での「ひみつ」・・・

三角点はレーダドームの裏手にあり、距離にして 100m 程度である。さっそく三角点に行くため、敷地の擁壁の角を曲がって歩いて行った。ふと振り返ると相棒の春樹氏がついてきていない。擁壁の角まで戻ってみると、駐車場でパラグライダー愛好者のリーダー格らしい方と話し込んでいた。時間はたっぷりあるので、その角で待つことにした。10 分が経過した。まだ話し込んでいる。パラグライダーに興味があるのかなァ、と思って呼びつけるのをためらった。更に 10 分経過した。「風の向きが悪い」とパラグライダー愛好者の一団は北側の斜面に移動していった。

そして駐車場に目をやったら、かの春樹氏の姿が見えない。駐車場に戻り、携帯に電話したが不通。「オオーッ」と叫んでも応答がない。時刻は Pm1:45。おそらく虚空蔵尊の白鷹山に行ったのでは、と直感した。が確定は出来ない。確定出来ない以上、追いかけることも出来ない。私は車の中で待つことにした。あっちの白鷹山に行ったとしても片道 20 分。Pm2:30 までには戻ってくるだろうと決め込んでいた。誰もいなくなった駐車場。時間の経つのがとても遅かった。

Pm2:20 過ぎた頃、車のルームミラーに管理用道路を走ってくる人影が映った。「春樹氏」である。車から出て迎えた。顔面蒼白で「はァはァ」と呼吸も乱れている。「どこまで行ってきた」と聞いた。「サイトーさんを探しにあっちの山までいった。」そういうのが精一杯みたいだった。「山でひと（同行者）とはぐれたら、その場から離れないこと」「ここの山だからいいけど、大きな山だったら遭難ものだヨ」とやさしく諭した。何よりも再会できたのが嬉しかった。彼が「山や」になる過程のことだから、このことは誰にも「しゃべらない」ことに決めた。

## 白鷹山三角点へ仕切り直し・・・

春樹氏の気持ちが落ち着くまで一休みし、気を取り直して一等三角点に向かった。

三角点は杉木立の中にあった。さっそく一等三角点の証拠写真を撮りすぐ車に戻った。この間たったの10数分の時間であるが、今回の主目的は達成したことになる。



一等三角点白鷹山

## 改めて白鷹山レーダドームのこと・・・

国土交通省が設置する白鷹山レーダ雨雪量計は、昭和63年(1988)に設置され、アンテナから全方向に電波を放射し雨や雪に当たってはね返る電波の強弱を計測して雨雪量を算出する観測施設で、半径で120km、地域では南東北と新潟県北部をカバーし、そのデータは各自治体などに防災情報として提供している優れたものである。

昨年11月に大型アンテナとそれを覆うドームというボール型のカバーが25年ぶりに交換された。今年6月から運用開始され、より精度の高いデータの提供が期待される。



観測の仕組みを解説した案内板

## 上杉鷹山公ゆかりの山へ、再度？・・・

白鷹山に来たからには、もうひとつの白鷹山、上杉鷹山公ゆかりの山に登ろうと予定していた。春樹氏は先ほど「私探し」で往復したばかりである。なので「車で待っててもいいから・・・」と声をかけてみた。彼からは「私も行きます!!」と元気になった声が返ってきた。

一等三角点の白鷹山から最高峰の白鷹山には尾根沿いに約20分程歩くと到着した。山頂には虚空蔵堂があり、草むしりをして手入れをしている方がいた。「春樹氏」を見かけて「また来たなァ」と声をかけられ、本人は照れ隠しで何度もお辞儀をしていた。境内には年配のご夫婦ふたりが草むらに座って休憩をしていた。



この電柱が道先案内人？でした・・・



荘厳さが漂う白鷹山虚空蔵堂

## 上杉鷹山公と白鷹山・・・

日本の歴史上で名君として第一に挙げられるのが米沢藩の藩主上杉鷹山公だという。財政破綻寸前の米沢藩の立て直しを大倏約と養蚕や鯉の養殖など53種に及ぶ産業の振興で乗り切ると共に、自ら率先垂範した。

幕末から明治に入り外国との交流も盛んになり、上杉鷹山公は、新渡戸稲造や内村鑑三により日本を代表する名君として広く海外に紹介された。「鷹山」とは「号」で本名は上杉治憲という。その「号」は白鷹山からとったものだと伝わっている。



お堂の広場に『伝国の辞』の石碑がある・・・

## いま置賜は盛り上がっている!?!・・

山頂には建立されたばかりの『伝国の辞』の石碑がある。境内で寛いでいたご夫婦に声をかけたら「置賜は今、ケネディ大統領で盛り上がってるんだア・・・」と自慢気に話してくれた。『伝国の辞』の隣には副碑があり、上杉鷹山の称賛者だったという米国のジョンF・ケネディ元大統領が、その就任演説で行った一文が刻まれている。



『伝国の辞』（中央）と副碑（左）・・・

## 『伝国の辞』と JF・ケネディ大統領・・

『伝国の辞』は上杉治憲（鷹山）が34歳で隠居する際、次期藩主「治広」に対して藩主の心得として申し渡したと伝えられている。

ジョンF・ケネディ元大統領の娘でキャロライン・ケネディ駐日大使が大使就任の頃「父は上杉鷹山を称賛していた」との話で、火が付き、現在米沢を中心とする置賜地方や山形県がキャロライン・ケネディ駐日大使の米沢・山形県への招聘運動で熱く盛り上がっている。

『伝国の辞』は代々の藩主隠居時に次期藩主に家訓として伝承された。すぐれた為政者の「心の叫び声」は、時代を越え、国を越えて「キラリ」と光る言葉として伝承されている。

### 『伝国の辞』の意訳

- 一、国（藩）は先祖から子孫へ伝えられるものであり、我（藩主）の私物ではない。
  - 一、領民は国（藩）に属しているものであり、我（藩主）の私物ではない。
  - 一、国（藩）・国民（領民）のために存在・行動するのが君主（藩主）であり、“君主のため存在・行動する国・国民”ではない。
- この三ヶ条を心に留め忘れることのなきように。

### 副碑にある大統領就任演説

国家があなたに何をしてくれるかではなく、  
あなたが国家に何ができるかを  
問おうではないか。

大統領 ジョンF・ケネディ  
上杉鷹山の称賛者

キャロライン ケネディ

駐日アメリカ合衆国大使（平成26年3月11日）

（出典：ウィキペディア）